



ボタニカルニュース ～牧野公園情報～

秋も深まりつつ♪

このあいだまで青々していた景色も、少しずつ色づきはじめたり、もう落葉していたり…。深まっていく秋にふと一年の速さを感じたりするこの頃です^^; そんなこの季節、牧野公園では一年のお花の締めくくりとばかりに、いろいろな野菊の仲間が出迎えてくれます!! 11月下旬頃には紅葉もおすすめです! 秋を満喫しに、みなさん牧野公園に遊びに来てくださいね☆

▼ノジギク



公園の開花情報はこちらから!

みかんのお話

秋冬の味覚として欠かせない果物・ミカン。ここでみなさんに問題です! 私たちが味わっているのは、ミカンの実のどの部分でしょう?・・・正解は『ミカンの毛の中の汁』でした! 衝撃の事実です!! 牧野博士の著書『植物知識』の中に、そのお話が出てきます。他にも『バナナは皮を食している』など、おもしろく読みやすい植物雑学がてんこもりです! 読書の秋に、お勧めの一冊ですよ^^

11月のお花ピックアップ

キッコウハグマ: 10月下旬～12月頃(花・種)
キク科モミジハグマ属。山地のやや乾いた木陰に生える小さな多年草。公園全体で見られます! 花は1cm程でとても小さいですが、足元で楚々と咲いている様子は可愛らしいですよ! 花後の綿毛もまた良し! 探してみてくださいね♪



まちまるごと植物園 ～まちの植物情報～

machimarugoto syokubutsuen

みんなで育てた山野草の植栽会のその後。。。〈7月植栽会の時のかわいい苗たち〉

本来は、9月に山野草のお手入れ会を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、中止になりました。そのときにみなさんが植栽した植物の様子を見て頂きたかったのですが、残念です(>_<) たくさん咲いていました♪



【植栽した植物】

・リンドウ ・ワレモコウ
・タニジャコウソウ ・シロヨメナ
・スズムシバナ など 28種

〈お手入れのヒント♪〉

「切り戻し」作業を知っていますか?

切り戻しとは、伸びすぎた枝や茎を切り取って株を短くして、植物の姿を整える事をいいます。キク科など上に伸びる植物は、背が高くなり倒れる事があります。そんな時に「切り戻し」をすると伸びるのを制御して、わき芽の成長が盛んになり、お花がこんもりしてかわいいですよ^^



←まちまるごと植物園のホームページ



〈植栽場所〉
佐川町総合文化センター
〈元気に育っていました♪〉



青山文庫だより

二つの八幡宮

先日、「どうして同じ庄田の中に立派な八幡宮が二つもあるのでしょうか?」という質問を受けました。宮ノ原八幡宮と鯨坂八幡宮の事です。どちらも中世(江戸時代前)以前に創建された古い神社として知られています。

そもそも八幡宮は、「武の神様」として武家の間で信仰が広がり庶民にも普及していった神社で、日本各地に勧請かんしやうされて祭られています。そのため、八幡宮が複数ある事自体はさほど不思議ではありません。

一方で、庄田の歴史を見ると、中世は黒岩村を中心とする黒岩郷の一部でした。ちなみに、この黒岩郷は中世にこの付近で力をもっていた片岡氏の本拠地でした。

しかし、江戸時代になって、土佐国の支配者が山内氏に変った際に、各地域(郷や村)の領域が再編成され、庄田は瑞応と共に黒岩郷から分かれ、深尾領(佐川領)に編入されました。再編成後の黒岩郷は土佐藩の直轄地(本藩領)となりますので、深尾領である庄田・瑞応とは支配体制も異

なりました。

宮ノ原八幡宮が鎮座する宮ノ原地区はこの庄田に含まれ、先に説明したとおり「中世は黒岩郷の一部で、江戸時代からは深尾領の一部」です。ただし、再編成の影響を受けて、宮ノ原八幡宮の存在自体が少し特殊な事例となっていました。

実は、宮ノ原八幡宮は中世から「黒岩郷の総鎮守(土地を守る神様)」として崇められていました。それなのに、鎮座地である宮ノ原地区が黒岩郷から分かれてしまったのです。それでも、旧黒岩郷の人びとの信仰が続いたようで、「深尾領にある他領の総鎮守」として在り続けたのです(今でも旧土佐藩領の黒岩地域と、ここ宮ノ原地区の人びとが信仰しているそうです)。

もう一つの鯨坂八幡宮は、江戸時代に深尾領の総鎮守とされ、領主・深尾氏の庇護を受けています。

このような背景の下、それぞれの総鎮守として大きな信仰を受けた八幡宮が同じ庄田の中に併存する事となったのです。

〈展示案内〉

(青山文庫 藤田有紀)

○特別展「新国家の成立と田中光顕」

○廃藩置県150年特別企画展「家老家からみた廃藩置県」
9月11日(土)～12月12日(日)

文芸

川柳

アトリエの隅で後継ぎ 遊ばせる
余生への アンテナどうも 遠くなり
文化鍋 焦がして妻に 愚痴られる

この俺の 思考を崩す 蚊一匹

俳句

風を背に 秋の山草 刈る一人

季の過ぎ これまでと西瓜 自爆せり

短歌

老いてなほ習ひし唱歌忘れえぬ

今にきらめく夕日の紅葉よ
童心期秋知りたるは唱歌なり

虫の音今に心とらへて

源平のごと咲き分けぬ萩の花
彼岸まぢかの野分にこぼる

小さき背の母のうしろで影法師
踏みつつ帰る満月の下

黒岩 英起

川柳・俳句・短歌を広報さかわに掲載してみませんか?

※1月号への掲載を希望される方は12月1日(水)まで

投稿方法: 氏名・住所・電話番号と、川柳・俳句・短歌のいずれの部門かをご記入のうえ封書やはがき、ファックスにてお送りください。応募多数の場合は抽選により掲載します。